

まちづくり懇談会内容

日 時：令和 3 年 7 月 2 日（金）18：30～20：03

場 所：南部公民館

出席者：23 人

1．開会

2．町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3．懇談

- (1) 栗山赤十字病院の改築（資料 1 参照）
- (2) 栗山駅南交流拠点施設整備事業（資料 2 参照）
- (3) 令和 3 年度の主要施策（資料 3 参照）

4．自由懇談

5．その他

6．閉会

《懇談内容》

【栗山赤十字病院の改築】

町民：今町長が説明した内容は、栗山赤十字病院の整備方針として聞いているが、現実的に確定するのはいつか。

町長：今回話した4つの整備方針については、基本的には確定している。細かい災害対策やバリアフリーのなどの実施設計は、栗山赤十字病院と詰めていく。

町民：資料9ページの中にあった主な意見の中で、実現可能なものはどれだけあるのか。以前、調剤薬局の敷地内整備について意見を述べたが、現在調剤薬局に行くのに、手押し信号を使い渡る人はほぼいない。交通安全の面でも、実現可能かを教えていただきたい。

栗山赤十字病院改築準備室長：調剤薬局の敷地内設置については、現在栗山赤十字病院と協議しているが、以前話した通り、栗山赤十字病院と調剤薬局の経営は分業している。現時点では町内にある3つの薬局から移転させてほしいという依頼は栗山赤十字病院に来ておらず、栗山赤十字病院としては、今後の設計する経過の中で、調剤薬局側からのアプローチがあった段階で検討していきたいという考え。栗山赤十字病院側から声をかけるのは、分業の中では難しいので、調剤薬局側の意思が重要になってくると思う。

【栗山駅交流拠点施設整備事業】

町民：北海道では、近年多くの交流拠点施設が作られている。栗山町の良さをどのように出していき、人々に選ばれる施設として何が必要なのか、どのように考えているか。煉瓦倉庫を活用していく中で、断熱コスト、建物のデザイン、長期的な活用範囲の計画はあるのか。また、ランニングコストの問題もある。設計者が入る過程はどのように考えているか。

ブランド推進課栗山駅南交流拠点施設担当主幹：栗山らしさをどのように発揮して、選ばれるような施設にするかという質問だが、関係人口を創るための施策の役割として、これまで言われてきた交流人口が、段階的に行けばまず栗山に来てもらい、そこからどうやって活動してもらえかを考え、発展的に進めていく必要がある。そのために、まずはどうやって訪れてもらうかを考えていく。今もものづくりDIY工房やまちなかレストランなどを行っているが、参加するだけでなく、今後も活動することを促していく。専門のスタッフを配置し、サービスを作りつつ情報を発信していき、ターゲットを設定してそこに向けて発信していこうと思う。作って終わりではなく、常に発信し続けたいと考えている。そこには町民との連携が必要であり、運営側だけが頑張るのではなく、町民の方々と接点を持ちながら新しい取り組みを作っていく発信をすることで、栗山らしさを引き出していきたい。また、外観については煉瓦倉庫の形を変えることはないが、施設内をまた訪れたい空間にしたい。例えばものづくりDIY工房の機材を活用して、ワークショップ形式で店内の椅子などを作り上げていくことも考えており、ぜひ町民皆さんに参加してもらって一緒に作っていききたい。ランニングコストは令和8年度に指定管理になった場合の想定として、年間2000万円程度と試算している。

町民：自分は移住者だが、栗山らしさや良さが、外の視点から見た時になかなか見えづらいと感じている。町の中に入ってもそれは同じで、町の人々も栗山の良さがってなんだろうと考えていると思うので、外の人にわかりやすく伝えられないというジレンマがある。その点をもっと町

民が考えていくことで、関係人口に関する施設やイベントによって、より伝わっていくと思っている。交流拠点施設に若い母親が本当に来るかどうか、もっとブラッシュアップが必要になると資料を見ながら思った。

ブランド推進課栗山駅南交流拠点施設担当主幹：現在、新たな観光推進体制づくりと計画の策定を進めており、これが施設運営のベースになる。観光分野では、北海道有数の観光地でも、コロナ禍の影響により逆に大変な思いをしている。そうした中、これからの栗山の観光はどういう位置づけになるかを考えると、おそらく他の観光地と肩を並べるような観光のまちにはならないため、関係人口の考え方につながってくる。今後、関係団体と連携しながら、推進体制と計画を作るにあたっては、町民や関係者と一緒になって考えていきたいので、南部地区の方々にもお願いしたいと思う。

町長：栗山町と言えばこれだという、一つに絞れるものは正直ないが、他の町にはない宝物がたくさんある。ハサンベツ・雨煙別小学校・全国でも医療費無料化の先陣を切った先進地であること・国蝶オオムラサキなど、たくさんの資源がある町である。いろいろな宝を町民みんなで磨きあげていきたいと思っている。

【令和3年度の主要施策】

町民：日出地区で光回線を整備しようという計画があるが、実際の工事が行われているのかどうかが見えてこない。先日、引き込み線を変えると電話回線が大幅に安くなるという電話があった。NTTに問い合わせたところ、そうした業者には一切関わらないでくださいとの回答だった。町のほうで、こうした動きがあるのは把握しているのか。高齢の人たちも多いので、広報くりやまなどでこういう事があったという、注意喚起をしてもらいたい。

総務課参与：高度無線推進事業として町がNTTと契約し、光回線の整備を進めている。令和3年度中に終わる予定だが、7月頃まで電線にかかった木の伐採を進めていて、それから工事が始まる。年度内に工事が終わってから、広報くりやまでの周知や、実際に工事が終了した案内を出す。

町長：併せて注意喚起も行う。

町民：介護保険料について、長沼町は全国的に見ても安い。これは町が裕福だからなのか。所得制限で金額を上げられるのであれば、上げてもいいと思う。その分をケアラー・ヤングケアラーへの支援にすることができる。私は町の高齢者福祉計画や介護保険事業計画などの会議によく行くが、5年後には配食サービスなどの利用が増えて、大変予算がかかる。それならば、町のほうから問題点を挙げて、委員にこの金額は減らせないと意見したほうがよいと思う。町のお金がないから、配食などのサービスはこの程度までしかできないということをしっかり示してほしい。

福祉総括：介護保険料の金額は去年から変わっていない。安い理由は、町民の皆さんが介護予防をしており、訪問介護などにかかるお金が少なくなっていることで、今回の金額が据え置かれても大丈夫と判断されている。逆に介護される方や、施設に入る方がたくさんいれば、金額は上がる。介護サービス、配食サービスなど、予算内でできる限りのサービスを行うようにしたい。町民の意見を聞き、関わりあいながら取捨選択していきたい。

町民：3年間金額を上げないということは、若い世代に今後のツケを残しているのか。

福祉総括：実は介護保険料が極端に上がらないように、町として積み立てているお金があり、今後3年間で、4割ほど取り崩そうと考えている。介護保険料が今上がらないことで、将来の世代に負担をかけることのないように、積立金の残高や介護サービスの関係などを踏まえ、将来を考えているということをご理解いただきたい。

【自由懇談】

質疑なし

20：03 終了